

## 国際ロータリー第 2650 地区

### 2020-21 年度 地区運営の考え方 (案)

国際ロータリー第 2650 地区ガバナーエレクトとなって7ヶ月、ガバナー候補者の指名を受けて2年が過ぎました。その間、ガバナー、パストガバナー、ガバナー補佐の皆様をはじめ多くの方々に多くのことを教えていただき支援してくださったこと、心から感謝しております。おかげさまで改めてロータリー活動のすばらしさを感じた2年間でした。

ガバナーエレクト年度に突入して、我々がどのような方向に向かって行くべきなのか、何を目標として目指すべきなのかについて考えなければなりませんでした。そのために最も大切なことはガバナーとしての活動方針を立てることです。そこで、試行錯誤を繰り返しながらたどり着いたのがこの3つの方針です。以下、ここに方針を掲げ、この方針にたどり着いた経過をお話ししたいと思います。

メインテーマは、「ロータリーの原点に戻る」ですが、その理由を述べます。これはR Iを中心に我々を取り巻くロータリーの環境が大きく変わってきたことにあります。すなわち、職業分類は緩くなり、例会の回数は自由となり、メイキャップができる期間も幅が持たせられるなど、様々なルールが緩和され、自由度が高められています。一方、これらの変化は我々にとって少し戸惑う部分でもあります。このようにロータリー全体の流れが混沌とした今こそ、あのポールハリスはなぜロータリーを設立したのか、ポールハリスは何を大切にしようとしていたのか、など原点に戻って考えることが必要だと感じます。そうすれば我々はこれからしっかりと歩み続けることができるのではないかと考えた次第です。

そして、この「原点に戻る」を基本に、以下の3つの方針を立てました。

## 地区スローガン

### 「ロータリーの原点に戻る」

誠意をもって語り合い、勇気をもって共に未来へ

3つの方針。

1. 今一度ロータリーの原点に戻り、ロータリークラブ一つひとつ、ロータリアン一人ひとりと誠意をもって語りあう。大切なこと、良いことは皆で共有し、勇気をもって共に未来に向かって実践していく。
2. 数々の自然災害の被災者の人々に寄り添い、勇気を取り戻すためにロータリーとしてできる活動をする。
3. RI とともにポリオ根絶のための最後の取り組みにクラブが主体となって、多くの機関、人たちとともに挑戦する。

方針1のいろいろな人の意見に耳を傾ける姿勢はポールハリスが実践した姿勢でした。

私だけでなくリーダーの皆さんにもお願いしたいことなのですが、私たちがファシリテーターになり、奉仕の学びをディスカッション形式で進めてはいかがでしょうか。自分たちの意見は先に述べてしまわないように配慮しながら話し合いを続ける。そうすることで、多くの参考となる意見が引き出され、自分たちも含めて全体が成長していけるのではない

かと思えます。方針2と3については、地区がこれまで最も力を入れてきた事業の一つですし、私自身の長年の夢でもあるので、これを機会に大いに飛躍させていただきたいと思えます。

R Iは他にも様々な戦略計画や規定審議会決定を次々と打ち出しています。これらを正しく理解し行動するとともに、一方で日本のロータリーはその地域性と国民性が尊重される中で活動されるべきであり、ロータリークラブやロータリアンはその個別事情が尊重される中で、自由で積極的な活動ができなければなりません。

また、クラブとロータリアンに役立つ適切な情報は、分かりやすく伝わらなくてはなりません。そして、すべてのクラブとロータリアンは、誰もが等しく尊重され、自主的な活動が保証されなければなりません。

これらのことを基本的姿勢として、上記3つの方針が実現できるようにしたいと思います。

国際ロータリー第2650地区 2020-21年度ガバナー

福井フェニックスロータリークラブ

松原六郎